

義の如き分裂的傾向は常に發生するであらう。此の意思味に於いて、我々の統一戦線に対する態度は今後益々重要性を増すことを確信するものである。而して此の態度は必ずしも組織上の対立関係を於いて主張せられるべきでなく、逆に組織の統一合同を通じて主張せられてこそ眞に有効となるのである。互に離れて居ては相容れないが近寄れば仲よくなることもあり得る。殆ど同様の綱領と政策を掲げ、同様の労働者、農民、小市民の大衆を包含する無産政党が組織上で対立する必要は、分裂主義以外にはわからないことである。故に統一戦線実現のためには

我が同盟は常に分裂主義に禍されぬ条件を一面に考慮しつつ、組織上の対立を除去しなければならぬ。即ち

1 我々の態度

- イ 現下の全無産政党統一に對しては、我々は日本労働黨の所謂「宗派的分裂主義の排除を第一絶対条件とする」ところの「階級的大衆的統一主義」の態度を支持する。
- ロ 現下の情勢に於いては、この態度は対立せる組織に於いて主張せらるべきでなく、大衆政党として組織を無条件に合同することを前提として主張せらるべきである。
- ハ そのために全無産政党合同のための協議会を（日も早く無条件に成立せしめるやうに努力すること。

2 我々の具体的方策

イ 本大会の決議を以て日本労働黨に對して無産政党合同